

# 映画「袴田巖 夢の間の世の中」無料上映会



1.31 土

第1部 10:00～12:00

第2部 13:30～15:30

各回定員 60名程度

上映時間 119分

## 【会場】

富山県教育文化会館 5階  
(富山県映像センター・  
ハイビジョン学習室)

【当日受付】  
上映 30 分前より、入場整理券を配布します。（無料）

## 2024年9月26日 再審無罪判決「袴田事件」について考える

2014年3月27日。「袴田事件再審決定！」は、トップニュースで伝えられた。「重要な証拠が捜査機関によってねつ造された疑いがある」。「これ以上拘置を続けることは耐え難いほど正義に反する」。48年の拘禁生活から解き放たれた袴田巖さんだが、肉体は解放されても、長い拘禁によって精神は縛られ、感情は固く閉ざされたままのようだった。映画は、袴田巖さんと姉・ひで子さんの暮らしに寄り添い、巖さんの「妄想の世界」を日常という「現実の世界」がゆっくりと包んでいくようすを映し出す。布団で寝る、買い物に行く、好物のあんぱんを食べる、テレビを見る、うたた寝をする……。生きることの尊さを静かに語りかけていく。



第4回 日隅一雄・情報流通促進賞大賞作品。（「Kimoon Film 公式サイト」より）



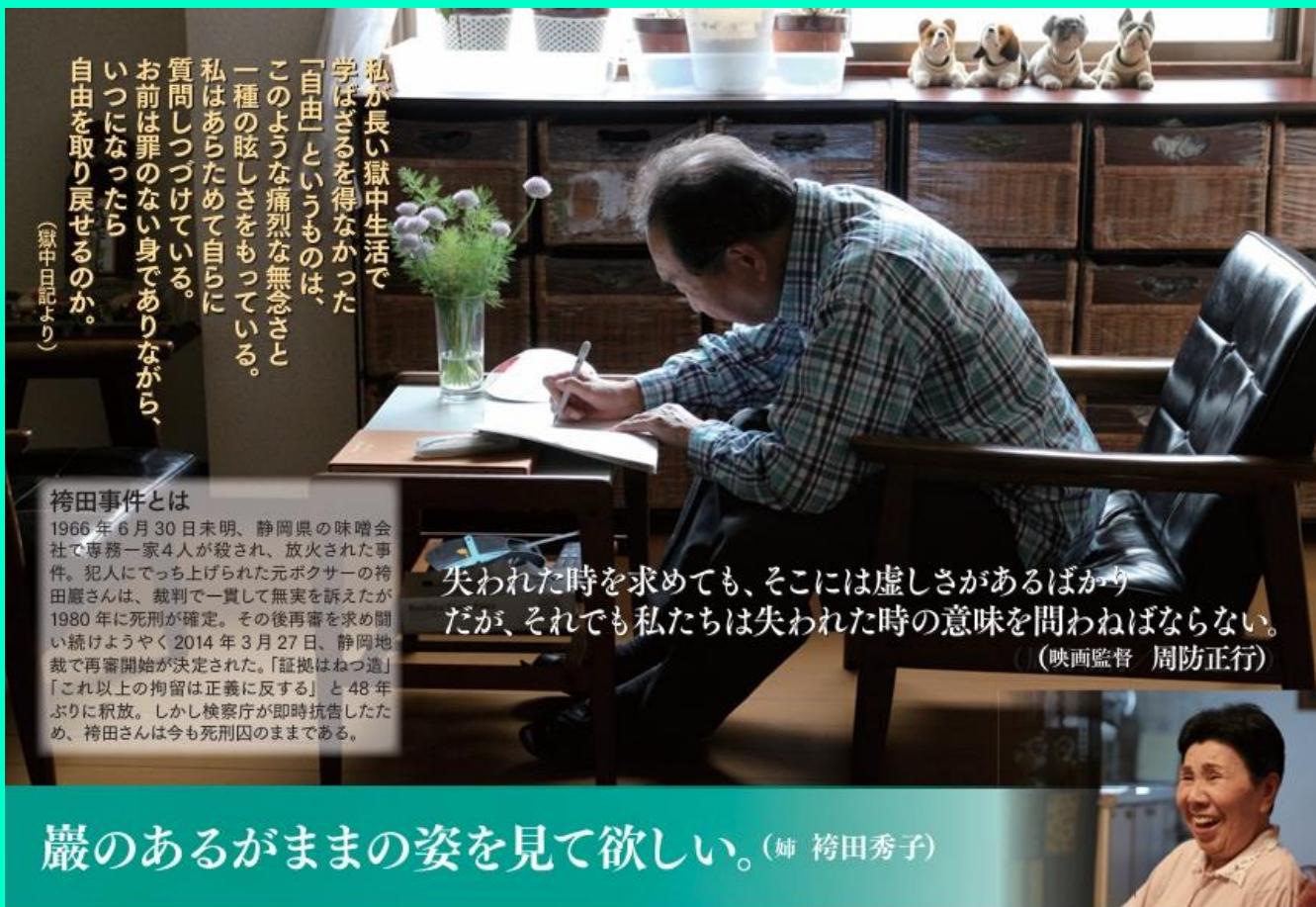
## 【お問い合わせ先】

富山県視聴覚教育協議会 ☎076-444-6080

✉asu.toyama@biz04.plala.or.jp



※駐車場には限りがあります。満車の場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。  
※会場内の食事は禁止です。水分補給は可能です。但し、蓋付きの飲料に限ります。



## 巖のあるがままの姿を見て欲しい。(姉 袴田秀子)

「証拠はねつ造の疑いがある」

「これ以上の拘置は耐え難いほど正義に反する」

2014年3月27日。冤罪でありながら死刑囚として、48年間という途方もない時間を獄中で過ごした袴田巖さんの再審が決定し、即日釈放された。私たちは、その後の生活にカメラを向けた。

「袴田事件は終わった。冤罪もない。死刑制度も廃止した。俺は死刑囚じゃないんだ」

事件のことを語る巖さんは、未だに「妄想」という自分の世界から抜け出すことができない。しかし、釈放直後の表情がなかった頃に比べると、「平凡な日常」が巖さんの気持ちを解きほぐしているようだ。

ある日突然始まった将棋三昧の日々。私も、何度も挑戦したが、なんと73戦全敗。その度に、勝ち誇ったように、ニヤッと笑顔をみせる。また、親戚の赤ちゃんを抱いた好好爺の表情は温かい。ボクシングの話題になれば半世紀前の記憶がよみがえり、試合の論評もする。

巖さんの「妄想の世界」を、日常という「現実の世界」がゆっくりと包み込んでいく。

死の恐怖から逃れようと必死で生き抜いてきた巖さんは、今も私たちが想像できない深い闇を抱えている。しかし「平凡な日常」のつみ重ねが光となつて、その闇を照らしはじめているように思う。

「巖のあるがままの姿を見て欲しい」と、姉の秀子さんは笑顔で語る。

この映画で何か明確な答えがでたわけではない。しかしスクリーンに映し出される巖さんの存在が、生きることの尊さを、静かに問いかけているような気がしてならない。

監督 金 聖雄

映画、テレビ番組、PR映像など幅広く手がける映像作家。「花はんめ」「空想劇場」などのドキュメンタリー映画を製作。2013年の「SAYAMAみえない手紙をはすすまで」は、キネマ旬報文化映画第3位、毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞受賞。1963年大阪生まれ、在日2世。



## ■ 富山県視聴覚教育協議会とは

各市町村の視聴覚ライブラリーとの連絡・協調を図り、視聴覚教材などの利用促進と情報交換を行い、視聴覚教育を通じて学校教育・社会教育の振興を目指しています。

また、中学生・高校生、教員・一般を対象にした研修会を開催して、情報機器やメディアの活用能力の向上を図っています。

(昭和24年：設立、令和2年：富山県教育功労賞受賞)

## ※ 視聴覚教材公開上映事業について

富山県視聴覚教育協議会は、年2回、「視聴覚教材(映画)選定委員会」を開催し、約20～25本の視聴覚教材(DVD)を購入しています。全てのDVDには、団体で視聴できる上映権が付いており、富山県映像センターにて無料で貸出しています。本事業では、その中から一般の映画館では公開されていない、社会派作品を県民の皆様に紹介します。

